



哲学が問われる

新成人には想定できない事故が“晴れの日”に起こり、世間を賑わせる。また、巨額な仮想通貨が流失してしまう事件は、多くの顧客に猜疑心を抱かせてしまいました。こうした事件事故から、私たちは何を学ぶべきなのでしょう。

多くの方が、あらゆるリスクを回避・軽減しようと予防や対策を講じている。しかしながら、誰も予測できません。つまり、事故や事件あるいは災害は、いつでも起こり得るということです。

大事なことは“いざという時の備えとは何か”ということではないでしょうか。近年リスクマネジメントの価値も見直されております。それは、すなわち常日頃の我々自身の“哲学”が問われていると思えてなりません。

しかし、実際に直面すれば、激しく動揺し、その現実を受け止めるのは難しい。また、何とか受け止めようと、起きた原因を解明できても、前向きにはなれません。それどころか、これまでのことを全て悲観的に見てしまえば、後悔だけが残り、自分を苦しめてしまいます。

問題なのは、どのように捉えるかです。過去に目を奪われるのではなく、現在をどう受け止めるかで、未来は変わる。そうすれば、今やれることが見えてきます。どのように受け止められるかは、自分次第であろうと考えます。

私自身、出向先で思うようにならず苦しんでいた時、創業者から教えられたことが、今でも心に刻まれている。創業者は『自分よりも不遇な環境、辛く苦しむ人に比べれば、自分の苦しみはどうなのか』と。それでも、当時の私は、理解に苦しむ。自分が苦難の渦中にいる時は、他者を思いやることは容易ではありません。その後も、数多くの“出会い”を重ね、そのような想いに立てるよう訓練しました。そうした人に思いを馳せれば、自分自身の豊かさに気付く。こうして日頃から捉えられれば、いざという時でも自分を見失うことはないと思います。

潔さ

ある大手上市企業は、利益を優先したために、不正を社内からリークされる。一方で、ある零細企業は、社内の一人ひとりが助け合いながら、生き生きと働いている。そこには、表面と内実があり、現実と真実があります。“美”という価値観で見れば、後者のほうが美しい。

私たちが追求するのは“美・利・善の価値”です。その“美の価値”とは、お客様の満足であり、スタッフの喜びです。さらに振舞いとして言い換えれば“潔さ”となります。

ある日、クライアントオーナーの拠点にて、食品偽装表示が問題になっていた。そこで、私共に相談があり「自ら正直に公表すべし」とアドバイス致しました。するとオーナーは、直ぐに行動に移しました。そこには、大変な勇気が伴ったことと思います。その後、同業他社の非難もありましたが、結果として、クライアントオーナーの拠点は守られました。

つまり、この潔い姿が、周囲に美しく映ったのかもしれませんが。“潔さ”とは、時には自分をも傷つけてしまいます。しかし、その傷は、やがて“勲章”ともなる。反対に保身に走り、言い訳をすれば、醜態をさらしてしまうと思います。

何とか良く思われたいし、その為には繕ってしまう。ましてや、これまで築き上げたものが傷つき、失ってしまうかもしれないとなれば、不安と危機感に苛まれる。しかし、私達は“ありのまま”です。ありのままの事実を受け入れ、次に進む。マイナスもプラスも全てをありのままに受け入れ、全てを肯定的に見ることが、何よりも自分への激励になると思っています。“潔さ”を貫くことは実に困難ですが、我々の目指す経営の美学を、どこまでも真正直に追求してまいります。